



14:15 イエスといっしょに食卓に着いていた客のひとりはこの話を聞いて、イエスに、「神の国で食事する人は、何と幸いなことでしょう。」と言った。

14:16 するとイエスはこう言われた。「ある人が盛大な宴会を催し、大ぜいの人を招いた。

14:17 宴会の時刻になったのでしもべをやり、招いておいた人々に、『さあ、おいでください。もうすっかり、用意ができましたから。』と言わせた。

14:18 ところが、みな同じように断わり始めた。最初の人是这样言った。『畑を買ったので、どうしても見に出かけなければなりません。すみませんが、お断わりさせていただきます。』

14:19 もうひとり是这样言った。『五くびきの牛を買ったので、それをためしに行くところです。すみませんが、お断わりさせていただきます。』

14:20 また、別の人は这样言った。『結婚したので、行くことができません。』

14:21 しもべは帰って、このことを主人に報告した。すると、おこった主人は、そのしもべに言った。『急いで町の大通りや路地に出て行って、貧しい人や、不具の人や、盲人や、足なえをここに連れて来なさい。』

14:22 しもべは言った。『ご主人さま。仰せのとおりにいたしました。でも、まだ席があります。』

14:23 主人は言った。『街道や垣根のところに出かけて行って、この家がいっぱいになるように、無理にでも人々を連れて来なさい。』

14:24 言うておくが、あの招待されていた人

たちの中で、私の食事を味わう者は、ひとりもないのです。』」

「神の国で食事をする」というのは、救いが前提となっています。イエス様のこのたとえは、第一にはイスラエルの民を指してします。神様は救いのために彼らを招いたのに、彼らはそれを拒絶しました。その結果救いは異邦人に及んだのです。もちろんそれも含めて神様の全世界を救われる御計画でしたが、イスラエルは救いの招きを拒んだのです。

そしてイエス様がたとえの中で、非常に日常的な断りのことばを使っています。ということは現代もいるであろう人々、すなわち自分の生活を言い訳にして神の招きに応じない人々についても言っておられるようです。

私たちは感謝なことに、これらのような拒む人ではなく、招きに応じる人となりました。であるなら今も、主の招きには応じる者でありましょう。神の子どもとなったと安心して、自分の生活にかこつけて拒むことのないようにしましょう。

生活を守ってくださるのは主です。また主の招きは盛大な宴会のように、楽しくめでたく喜びに満ちたものだからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

